



神戸国際大学 キリスト教センター通信
2024年3月12日 第107号

Silliman University, Dumaguete, Negros, Philippines

「尊厳と品性」

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉 哲哉

そう言えば、よく聞くのにわかっているようであまりわかっていない、そんな概念のひとつに「尊厳」があるようです。「人としての尊厳」「個人の尊厳」「尊厳を大切にすること・傷つける」など、たしかに日常の会話にはそれほど出てこないかも知れませんが、新聞記事や評論をはじめ活字の世界ではそれほど珍しくありません。みなさんはどうでしょう、説明できるでしょうか。

人を大切に思い尊敬する気持ちを持つこと、それはその人が目の前にいるかどうか、その人を知っているかどうかによらず、いつの時代でも、どこにいても、誰に対しても持つべき、いわば人間にとって普遍的な価値といえるでしょう。となく人の価値は良くも悪くも値踏みをしてしまうものですが、どんなに権力や財力をともない有名で人気があっても、それだけで尊厳があるとは限りません。人に対するときは相手の尊厳を大切にしないと、自分も決して人から尊厳を認めてもらうことはないものです。また、尊厳が普遍的な価値というのは、特定の人間に対する尊敬や服従では、その人自身も尊厳のある人だとは言えないことを示しています。何故なら、このような態度は見返りを求めるものであったり、自分の快楽や利益を満たそうとするだけのものだったりするからです。

尊厳を指す Dignity は同じく「品位」や「品格」を意味します。そして、忘れてならないのはこの「品位」や「品格」は「宝石が似合う」や「お高くとまる」でもなく「気高い心をもつ」ということです。

似た言葉に「品性」があり、英語では Character です。キャラクターという用語などで架空の人物の特徴的な性格を指しますが、「キャラが濃い・キャラが立つ」などは本来の「品性」と異なる使われ方をしています。キャラを立てると注目を集めるために、お調子者がふざけたり、ワルを演じたりすることがあるのは周知の通りです。ところが、品性はそう簡単には手に入りません。財力があっても品性がともなわない人間がいるのはそのためです。そんな人間に限って金でほかの人と繋がろうとしたり、自分を飾り立てて良く見せようとしたりします。ただ、これではつまらない人間だとすぐに見破られてしまいます。キャラクターが架空のものならば、喝采もその場限りのものに過ぎません。どんなに嬌声を浴びても、それは決して長きにわたる評価ではなく、すぐに消え去ってしまうに違いありません。

楽しそうに見えたり自分が大きくなったように思えたりすることもあるのですが、何でも「ノリ」とか「流れ」に任せることなく、細かいところもよく見て、落ち着いて静かに考え、周囲や自分にとってどうすることが真の価値になるかを判断するよう心がければ、品性をともなった大人に一歩ずつ近づくことができるようになるでしょう。



一口メモ 復活日（イースター）っていつ？

キリスト教の祭日・祝日は12月25日のクリスマスが有名ですが、復活日は月齢（月の満ち欠け）によって日を決めるので、2024年は3月31日、2025年は4月20日と、最大で1か月近くも移動することがあります。